

Paillier 暗号

(1) 準備

Paillier 暗号は、次のような性質を利用している。 $n \in \mathbb{N}^+$ のとき、二項定理より、

$$(1+x)^n = \sum_{j=0}^n {}_nC_j x^j \equiv 1 + nx. \pmod{n^2} \quad (1)$$

そこで、 $y := (1+x)^n$ とすると、 $x = (y-1)/n \pmod{n^2}$ である。ここで、関数 $L(x)$ を次のように定義する。

$$L(x) := \frac{x-1}{n}. \quad (2)$$

この関数は、後で Paillier 暗号の復号の際に使う。

$$L(y \pmod{n^2}) = \frac{y \pmod{n^2} - 1}{n} \pmod{n} \equiv \frac{(1+nx) - 1}{n} = x. \quad (3)$$

(2) 鍵生成

- $\gcd(pq, (p-1)(q-1)) = 1$ を満たす大きな素数 p, q を選ぶ。
- 公開鍵 \mathbf{pk} は、 $n \leftarrow pq$, $g \leftarrow (1 + \alpha n)\beta^n$ である。ただし、 $\forall \alpha, \forall \beta \in \mathbb{Z}_{n^2}^*$ である。
- 秘密鍵 \mathbf{sk} は、 $\lambda \leftarrow \text{lcm}(p-1, q-1)$ である。

(3) 暗号化アルゴリズム

公開鍵 \mathbf{pk} と $\gcd(r, n) = 1$ を満たす乱数 $r \in \mathbb{Z}_{n^2}^*$ を用いて、次のようにメッセージ $m \in \mathbb{Z}_n$ を暗号化する。つまり、 c を暗号文、 E を暗号化関数とすると、

$$c = E(m, r) := g^m r^n. \pmod{n^2} \quad (4)$$

(4) 復号化アルゴリズム

秘密鍵 \mathbf{sk} と (3) の関数 L を用いて復号する。

$$\frac{L(c^\lambda \pmod{n^2})}{L(g^\lambda \pmod{n^2})} = m. \pmod{n} \quad (5)$$

(6) を計算するために、まず $r^{\lambda n} \equiv 1 \pmod{n^2}$ を示す必要がある。

補題 1 $\gcd(r, n) = 1$ を満たす $r \in \mathbb{Z}_{n^2}^*$ について $r^{\lambda n} \equiv 1 \pmod{n^2}$ が成り立つ。

proof. Euler の整関数より $\varphi(n^2) = n(p-1)(q-1)$ であり、 $\gcd(pq, (p-1)(q-1)) = 1$ なので、原始根定理より $\mathbb{Z}_{n^2}^*$ には、位数 n と位数 $(p-1)(q-1)$ の部分群が存在する。したがって、 $\gcd(r, n) = 1$ を満たす $r \in \mathbb{Z}_{n^2}^*$ について、Euler の定理の精密化^{*1}より、

$$r^\lambda \equiv 1. \pmod{n} \quad (6)$$

つまり、ある整数 Q を用いて $r^\lambda := 1 + nQ$ と表すことができる。よって、

$$r^{\lambda n} = (1 + nQ)^n = 1 + n^2(Q + \dots) \equiv 1. \pmod{n^2} \quad (7)$$

以上より、補題 1 は示された。■

補題 1 を用いて、 $L(c^\lambda \pmod{n^2})$ を具体的に計算すると、 $\gcd(\alpha, n) = 1, \gcd(\beta, n) = 1$ なので、

$$\begin{aligned} L(c^\lambda \pmod{n^2}) &= L(g^{m\lambda} \cdot r^{\lambda n} \pmod{n^2}) = L(g^{m\lambda} \pmod{n^2}) \\ &= \frac{(1 + \alpha n)^{m\lambda} \beta^{nm\lambda} \pmod{n^2} - 1}{n} \\ &\equiv \frac{(1 + \alpha n m \lambda) - 1}{n} = \alpha m \lambda. \pmod{n} \end{aligned} \quad (8)$$

以上 (6), (9) より、

$$\frac{L(c^\lambda \pmod{n^2})}{L(g^\lambda \pmod{n^2})} = \alpha m \lambda \cdot (\alpha \lambda)^{-1} = m. \pmod{n} \quad (9)$$

^{*1} Refined Euler's Theorem

(5) 暗号化関数の準同型性

Paillier 暗号化関数 E は準同型写像である。乱数 $r_1, r_2 \in \mathbb{Z}_n^*$ とメッセージ $m_1, m_2 \in \mathbb{Z}_n$ を暗号化した暗号文 $E(m_1, r_1), E(m_2, r_2)$ の積を考える。

$$\begin{aligned} E(m_1, r_1) \times E(m_2, r_2) &= g^{m_1 r_1^n} \times g^{m_2 r_2^n} \\ &= g^{m_1 + m_2} (r_1 r_2)^n \\ &= E(m_1 + m_2, r_1 r_2). \pmod{n^2} \end{aligned} \tag{10}$$

したがって、メッセージ $m \in \mathbb{Z}_n$ のスカラー倍は次のように表すことができる。 $N \in \mathbb{Z}_n$ において、

$$\begin{aligned} \prod_{i=1}^N E(m, r_i) &= E(m, r_1) \times E(m, r_2) \times \cdots \times E(m, r_N) \\ &= (g^m)^N \times \prod_{i=1}^N r_i = E(N \times m, r_1 r_2 \cdots r_N). \pmod{n^2} \end{aligned} \tag{11}$$

(11),(12) のように暗号化したまま平文の和やスカラー倍を求められる性質を加法的準同型性と呼ぶ。